



真宗大谷派 存明寺通信

NO.188

2019年(仏歴2550年)1月1日発行



京都・東本願寺の中にある阿弥陀堂の風景



存明寺の永遠のテーマ



真宗大谷派 存明寺
ぞんみょうじ で あ
住職 酒井義一
ぞんみようじ

人は悩みを抱えるものです。
しかし、悩みあるがゆえに
自ら立ち上がり、自らの人生を歩んでいく存在。
そのことの確かさと力強さを
体感できる一年にしていきたいものです。
今年もどうぞよろしくお願ひいたします。

悩みは早く乗り越えたいし、早くなくしたい…。
誰だつて、そう考えるのが普通のことです。
しかし、親鸞の教えに生きた師は違います。
自分を悩ませている問題があるからこそ、
人はもがき、さぐり、訪ねるもの。
そして人は、立ち上がり、求めていく者となる。
それこそが人間の救いだというのです。

自分を立ち上がらせる御縁はない
坂東性純(真宗大谷派僧侶)

ぞんみょうじ で あ
存明寺HP、隨時更新中 親鸞と出遇うお寺

<http://www.zonmyoji.jp>

悲しみを聞く人・親鸞

存明寺住職 酒井義一

あたたかさが身に沁みる

季節に実感するのは「あたたかさ」の有難さであろう。夏や秋には感じられないが、寒さが厳しければ

寒さが本格化してきた。こんな季節に実感するのは「あたたかさ」の有難さであろう。夏や秋には感じられないが、寒さが厳しければ厳しいほど、「あたたかさ」の有難さは、身に沁みて感じるものである。

人生も同じ。つらさや苦悩があ

ればあるほど、そのような人間を包み込む教えるあたたかさ、人間を照らし続ける光（教え）のあたたかさは、ひとりわ身に沁みるものではないだろうか。

後悔や自責の念を語る人

存明寺で行なっているグリーフケアのつどいには、大切な方を亡くされた人が集まつてこられる。

その中で多くの方々が心の奥にある思いを吐露される。中でも印象的なのは、後悔や自責の念を語られることがある。

「なぜあの時こうしなかったのだろう」「なぜもっと早く気がつけなかつたのだろう」、と。そのような時、一緒に確かめていることは、後悔や自責の念は、亡き人との関係の深さの裏返しであるということだ。後悔や自責の念は、その人のことが「大好きだからこそ」なのだと、ことを人々と共に確かめてきた。

私も同じ人間だ

私事で恐縮だが、83歳になる母が、10月6日の朝、脳梗塞で倒れ、救急車で病院に運ばれた。

私は今、とても後悔をしている。あの空白の一時間を。なぜもつと早く母の異変に気づけなかつたのだろう。なぜもつと早く救急車を呼ばなかつたのだろう。そのような後悔の気持ちが湧いてくる。その時に思い浮かんだのは、グリーフケアのつどいで後悔の思いを語る人々のことだった。私も同じだ。後悔という悲しみを抱えて生きる同じ人間だったのだ。そんな当たり前のことだ。あらためて気がついた。

私は今、とても後悔をしている。あの空白の一時間を。なぜもつと早く母の異変に気づけなかつたのだろう。なぜもつと早く救急車を呼ばなかつたのだろう。そのような後悔の気持ちが湧いてくる。その時に思い浮かんだのは、グリーフケアのつどいで後悔の思いを語る人々のことだった。私も同じだ。後悔という悲しみを抱えて生きる同じ人間だったのだ。そんな当たり前のことだ。あらためて気がついた。

私は今、とても後悔をしている。あの空白の一時間を。なぜもつと早く母の異変に気づけなかつたのだろう。なぜもつと早く救急車を呼ばなかつたのだろう。そのような後悔の気持ちが湧いてくる。その時に思い浮かんだのは、グリーフケアのつどいで後悔の思いを語る人々のことだった。私も同じだ。後悔という悲しみを抱えて生きる同じ人間だったのだ。そんな当たり前のことだ。あらためて気がついた。

私は今、とても後悔をしている。あの空白の一時間を。なぜもつと早く母の異変に気づけなかつたのだろう。なぜもつと早く救急車を呼ばなかつたのだろう。そのような後悔の気持ちが湧いてくる。その時に思い浮かんだのは、グリーフケアのつどいで後悔の思いを語る人々のことだった。私も同じだ。後悔という悲しみを抱えて生きる同じ人間だったのだ。そんな当たり前のことだ。あらためて気がついた。

了



親鸞につどう報恩講法要

報恩講の法話より

昨年の11月2・3日の2日間、
親鸞につどう報恩講法要が行われ、
大勢の方々の参詣があつた。講師
には沖縄から知花昌一さん（真宗
大谷派僧侶）をお招きし、法要や
法話・お斎（精進料理のお昼ごは
ん）などが行われ、親鸞聖人に出
会うための時が流れた。

両日とも門徒感話があつた。そ
れぞれの今の思いを正直に語られ、
参詣者の共感を生んだ。

感話御礼

高岡 文子さん（2日）
井ヶ瀬恵子さん（3日）



（知花昌一さん）

* 62年かかったんです、親鸞さん
に会うのに。うれしかったです
ね。

* いのちというのは、どのような
いのちも生きるために生まれて
くるのです。

* 本来の親鸞の教えは、平和と平
等を求めていくという宗教。

都・東本願寺にておとの修学旅
行（奉仕団）が行われ、23名が参
加した。今回が8回目となる。昨
年夏にリニューアルした東本願寺
の宿泊施設「同朋会館」に泊まり、
本山報恩講法要に参詣し、法話を
聞き、語り合いなどが行われた。
参加者からは、「食事の時に色々な
人と話せてうれしかった」「親鸞の
ことをもっと勉強したくなつた」「
法話の内容が入ってきて、仏教
を身近に感じた」などの感想があ
つた。

* 地獄は自分が作っている。しか
し、そのことに気がつかない人
間は、懺悔すらおこらない。

* 親鸞も救われなかつた。だから
こそ、ずっと求め続けた。それ
が生きるということだ。

* ぬくもりのある、あたたかい場
所があれば、人はつらい現実を
しっかりと生きていける。

（御橋博喜教導）



出遇つた言葉たち

報恩講法要 写真館



サンシン片手に知花さん



本堂内陣のお荘嚴



同朋唱和が基本です

おとの修学旅行 写真館



新しい同朋会館で語り合い



法話を聞きます



東本願寺での集合写真

おとの修学旅行奉仕団

11月24日～26日の三日間、京

都・東本願寺にておとの修学旅
行（奉仕団）が行われ、23名が参
加した。今回が8回目となる。昨
年夏にリニューアルした東本願寺
の宿泊施設「同朋会館」に泊まり、
本山報恩講法要に参詣し、法話を
聞き、語り合いなどが行われた。

参加者からは、「食事の時に色々な
人と話せてうれしかった」「親鸞の
ことをもっと勉強したくなつた」「
法話の内容が入ってきて、仏教
を身近に感じた」などの感想があ
つた。

* 親鸞も救われなかつた。だから
こそ、ずっと求め続けた。それ
が生きるということだ。

* ぬくもりのある、あたたかい場
所があれば、人はつらい現実を
しっかりと生きていける。

（御橋博喜教導）



お寺のひろば 2019

1月1日(火)

10時 樹心の会 修正会

3月21日(木)

11時と13時 春のお彼岸法要

3月30日(土)

14時 グリーフケアのつどい

4月13日(土)

14時 樹心の会

4月27日(土)

10時 おみがきのつどい

5月3日(金)

12時 永代経法要

5月18日(土)

14時 樹心の会

6月8日(土)

14時 樹心の会

6月22日(土)

14時 グリーフケアのつどい

7月6日(土)

11時 新盆法要

7月13日(土)

11時と13時 お盆法要

8月31日(土)

午後 青年のつどい

9月7日(土)

14時 樹心の会

9月23日(月)

11時と13時 秋のお彼岸法要

10月12日(土)

14時 グリーフケアのつどい

10月26日(土)

14時 樹心の会

11月3日(日)

12時 報恩講法要

12月14日(土)

14時 樹心の会

12月21日(土)

14時 グリーフケアのつどい

(平野修)

地下水の如くに

流れ続ける

1月のお寺の掲示板

如来の本願は

風のよう

身に添い

【あとがき】

▼この「あとがき」はすべての原稿が完成した一番最後に書くよう正在する。スラスラと書ける時もあるが、いくら考えても何も浮かんでこない時もある。実は…今回がそれなのである。



おとの修学旅行 2018

同朋会館のロビーにて



▼そんな時、いいことを思いついた。それら今までのことを書いてみよう、と。するとものの5分もしないうちに「あとがき」が完成した。めでたし、めでたし。

▼そんなこんなでバタバタと年末を過ごしながら、やっと迎える新年です。皆さんはどのような新年をお過(う)ぎでしようか。

▼存明寺は、今年も出遇いと学びがあふれる人々の居場所となることを目指していきます。今年も変わらずによろしくお願いします。(住職 釋諦信)

東京都世田谷区北烏山4-15-1

真宗大谷派 存明寺

住職 酒井 義一(釋諦信)

H-157-0061 TEL 03-3300-5057

FAX 03-3300-5880

E-mail : sakai@zonnyoji.jp